

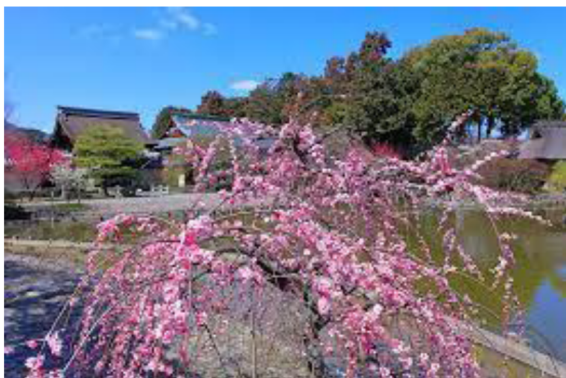
8) 梅宮大社を彩る季節の花々

木と花の女神である木花咲耶姫命をご祭神に祀る梅宮大社は、花の名所としても有名です。

梅宮大社の花々で特に見事なのが、社名にも使われている梅。

梅宮大社が現在の場所に遷座された平安時代は、花見と言えば桜ではなく梅を見るのが一般的。

多くの人々が花見を行ったことが想像されます。



春の梅宮大社は京都屈指の梅の名

所として知られています。神苑には、約 40 種類 550 本の梅が植栽されており、例年 2 月下旬に見頃を迎えます。2022 年 3 月 6 日には、梅産祭（うめうめまつり）りが開催され、満開の梅が咲き誇るなか安産祈願の大祭が行われました。

京都を代表する梅の名所である梅宮大社ですが、桜の花も美しく咲き誇ります。ソメイヨシノや神苑の八重桜も美しく、1 シーズンで桜の花を長く楽しめる名所となっています。

また梅宮大社では春の梅や桜のほかにも、花菖蒲、カキツバタ、ツツジ、紫陽花などさまざまな花が咲くことにくわえ、秋の紅葉も見事です。

神苑の池に紅葉が映り、紅葉の穴場スポットにもなっています。

梅宮大社では、北神苑・東神苑・西神苑から構成されている神苑です。

北神苑の勾玉池と東神苑の咲耶池に睡蓮が植えられ、白い花を咲かせます。



西神苑は、椿と梅苑と主体とした、冬～早春に見頃を迎える庭園です。江戸時代には本居宣長がこの梅苑のことをうたったそう。

梅宮大社とは、神苑全域にわたって植えられている約 50 種 300 本のツバキが、真冬でも早咲きのツバキが咲き、12 月末くらいからは「冬至梅」も咲き始めるという、四季折々の花を咲かせる神苑です。

この梅津地域は平安時代には貴族の別荘が多く造られた場所で（ちょっと離れてるけど『桂離宮』もそうした背景を元に造られたと言いますね）、この歌は経信が源師賢の梅津の山荘を訪れた際にうたったもの。東神苑で眺められる北山の借景、

西の嵐山方面の美しい借景はその頃からの歴史的な景観なんだろうな。また色々な季節を訪れたいくなります。